

2 研究の実際 > (2) 授業の実際

Ⅰ 授業実践 (小学校 第4学年 2時目)

◆本時のねらい：グループでの交流活動を通して、自分や友達の「強み」を知ったり、「強み」の生かし方を考えたりすることができるようにする。

◆本時のめあて：自分や友達の「強み」を生かそう。

◆授業前の取り扱い

- ・前時のワークシート等をファイルにまとめ、児童に配付する。
- ・グループを意図的に構成し、児童の心理的な負担を減らすように配慮する。

◆本時の展開

学習活動と授業スライド	・児童の様子と教師の気付き	○教師の働き掛け
<p>1 前時の活動を振り返る。</p>	<p>・スライドと前時のワークシートを基に「強み」の定義について再確認をすると、「そうだった」「思い出した」などの声が上がった。</p>  <p>【「強み」の定義を確認する様子】</p>	<p>○授業前に前時のワークシートと振り返りシートを返却し、自分の「強み」や活動を通じた気付き等を思い出すことができるようにした。</p> <p>○スライドを提示して「強み」の定義を確認できるようにした。</p>
<p>2 本時のめあてを知る。</p> 	<p>・本時のめあてと学習内容を知り、活動に期待する様子が見られた。</p>	
<p>3 「星☆いくつ」の活動を行う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">交流活動 (4人)</p> <p>(1) グループの友達に当てはまる「強み」を4つ選んでシールを貼る。</p>	<p>・「〇〇さんにあてはまるものがいっぱいあって迷うな」「4個以上貼りたいな」等とつぶやいていた。</p>	<p>○ワークシートを配付した。</p> <p>○スライドを提示し、活動内容と方法を説明した。</p> <p>○自己肯定感が低い児童でも安心して活動できるように、まず、友達の「強み」というものにシールを貼るように指示した。</p>

(2) 自分に当てはまる「強み」を4つ選んでシールを貼る。

(3) 自分の「強み」だと思うものを3つ選び丸印を付ける。

(4) 選んだ「強み」と気付きを伝え合う。

4 「ステップ アップ ウェビング」の活動を行う。

交流活動（4人）

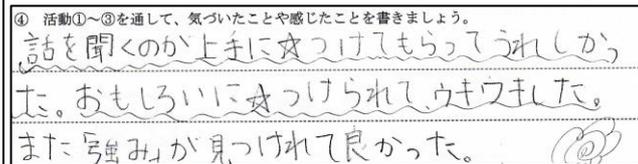


・全ての児童が、友達の貼ったシールを参考にしながら、自分の「強み」に当てはまるものを選んでシールを貼ることができた。

1	おもしろい				
2	明るくて いつもニコニコ				
3	思いやりがある・やさしい				
4	お世話が すき・お世話が 上手				
5	話を聞くのが 上手				
6	最後まで がんばる				
7	体力が ある				
8	あいさつ名人・返事名人				
9	はきはきと 話す				
10	グッドアイデアを 思いつく				

【Bさんの「星☆いくつ」】

・「星☆いくつ」の活動を通して気付いたことや感じたことを、笑顔で伝え合う姿が見られた。



【Bさんが記述した気付き】

・『「自分ウェビング」と名前が似ているよ』『クモの巣みたいに書くところも似ているね』など、1時目の活動と比べて気付いたことをつぶやいていた。



【「ステップ アップ ウェビング」の活動方法を学ぶ様子】

○友達にシールを貼ってもらったワークシートに目を通す時間を設けた後に、自分の「強み」と思うものにシールを貼るように指示した。

○友達と自分が貼ったシールを改めて確認した後に、特に、自分の「強み」と思うものに丸印を付けるように指示した。

○前時に学習した「話をきくときの約束」を確認して、安心できる雰囲気の中で伝え合うことができるようにした。

○選んだ「強み」と気付きを伝え合うことにより、互いに自他のよさに気付くことができるようにした。

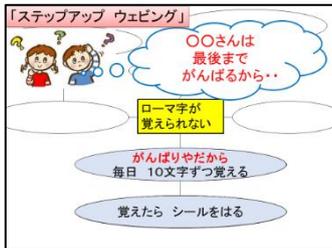
○ワークシートを配付した。

○スライドを提示して活動内容と方法を説明した。

○前時の活動（「自分ウェビング」）と活動の方法が似ていることを伝え、抵抗なく取り組むことができるようにした。

(1) 自分が苦手なことや困っていることの中で、解決したいと思っていることを1つ書く。

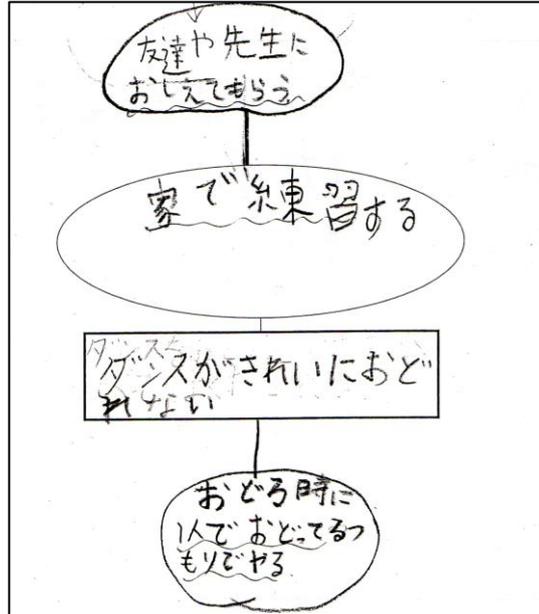
(2) 友達が解決したいと思っていることを解決するためのアイデアを書く。



(3) 自分が解決したいと思っていることを解決するために頑張りたいことを書く。

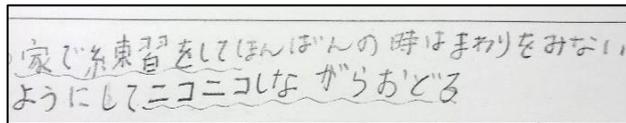
・全ての児童が、スライドやワークシートに例示している具体例を手掛かりにしながら、自分の苦手なことや困っていることを書くことができたが、予想以上に時間が掛かった。体育大会間近だったため、「バトンパスが苦手」など、体育大会の競技や演技に関する内容が多かった。

・「星☆いくつ」の活動で知った「強み」を確認しながら、友達が困っていることを解決する方法を考えようとする姿が見られた。



【Bさんが記述した「ステップアップ ウェビング」】

・全ての児童が、友達のアイデアの中から自分にできそうなことを選んだり、友達のアイデアを参考にして自分がやってみたいことを考えたりしていた。



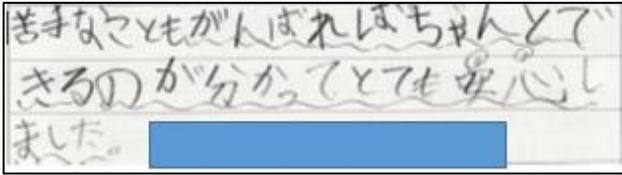
【Bさんが記述した解決方法】

○発達段階に応じて、苦手なことや困っていること具体例を5つ提示した。

○これまでの活動で知った友達の「強み」を参考にして、解決するためのアイデアを書くように助言した。

○友達にアイデアを書いてもらったワークシートに目を通す時間を設けた。

○友達のアイデアを参考にして、自分が頑張りたいことを書くように助言した。

<p>(4) 自分が解決するために頑張りたいことを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書いたことを読んで伝えるため、安心して伝えることができていた。  <p>【解決方法を伝え合う様子】</p>	<p>○自分の「強み」を生かして頑張りたいことについて伝え合うことにより、自分や友達の「強み」を生かしてみたいという意欲を高めるようにした。</p>
<p>5 本時の活動を振り返る。</p> <p>交流活動(4人)</p> <p>(1) 振り返りシートに記述する。</p> <p>(2) グループで気づきを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書やワークシートを手掛かりにしながら、活動を振り返る姿が見られた。 ・時間が足りず、文字が雑になったり、早口で伝え合ったりする様子が見られた。  <p>【児童が記述した感想や気づき】</p>	<p>○振り返りシートを配付した。</p> <p>○気付いたことや感じたことを記述してグループで伝え合うことにより、互いに自他のよさに気付くことができるようにした。</p>
<p>6 次時の活動を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『強み』を生かしてみよう」というメッセージと、「強みキッズ」のキャラクターが飛び出すスライドを見て、笑顔になった。 	<p>○次の時間も「強み」について学習することを伝えて、興味や関心を継続できるようにした。</p>

◆授業後の取り扱い

- ・児童の気づきや感想を、学級通信等で紹介しました。
- ・ワークシートと振り返りシートを読んで、コメントを書きました。
- ・ワークシートと振り返りシートをファイルにとじて、児童が学習を振り返ることができるようにしました。

◆本時の考察の視点

- ・本時のねらい「グループでの交流活動を通して、自分や友達の『強み』を知ったり、『強み』の生かし方を考えたりすることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問で、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

○振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は92.9%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は7.1%でした（図1）。また、振り返りシートには、「『星☆いくつ』はウキウキしました」「みんなの『強み』を見付けるのが楽しかったです」という記述が見られました。これらのことから、児童は「星☆いくつ」や「ステップアップ ウェビング」の学習活動やグループでの交流活動に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたと考えます。

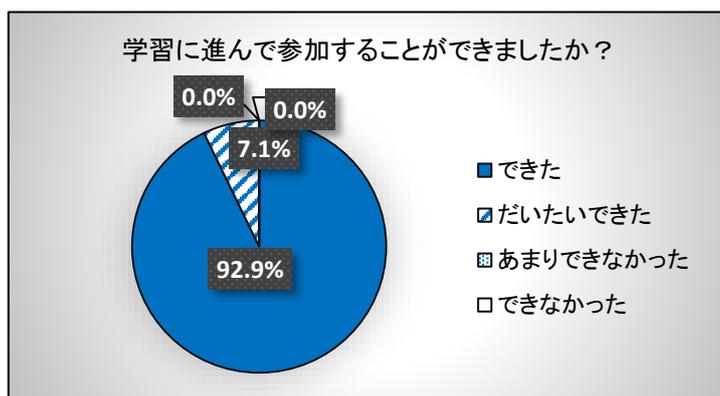


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

○振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は92.9%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は7.1%でした(図2)。また、振り返りシートには、「自分の『強み』を友達にってもらって良かった」「友達の意見を聞いて自分の不満を解決できて良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「星☆いくつ」や「ステップアップ ウェビング」の学習活動やグループでの交流活動を通して、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

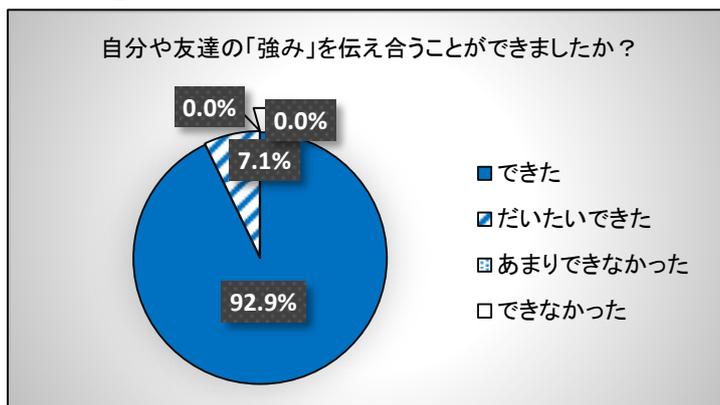


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

○振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は100%でした(図3)。また、振り返りシートには、「自分の『強み』を友達に書いてもらって、また1つ自分の『強み』がふえたので良かったです」「自分はこんな『強み』があるんだな、こんなことができるんだなということが分かってうれしかったです」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「星☆いくつ」や「ステップアップ ウェビング」の学習活動やグループでの交流活動を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

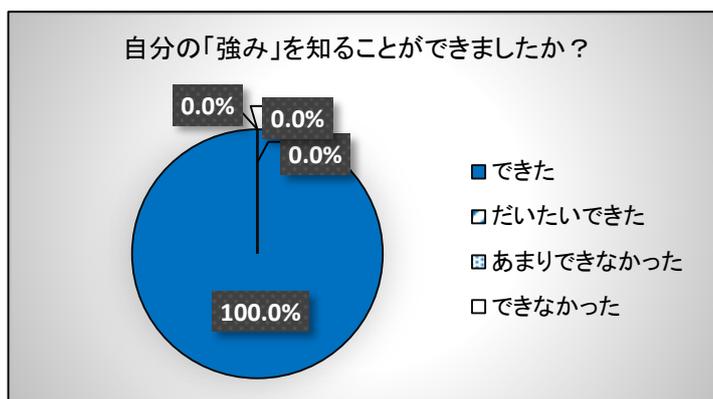


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

○「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は92.9%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は7.1%でした。(図4)。また、振り返りシートには、「今日は自分の『強み』をもっと知れたし、友達のも知れたので良かった」「自分の知らない『強み』が見付かったので良かったです。友達の『強み』も見付けられたので良かったです」という記述が見られました。これらのことから、児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の学習活動やグループでの交流活動を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

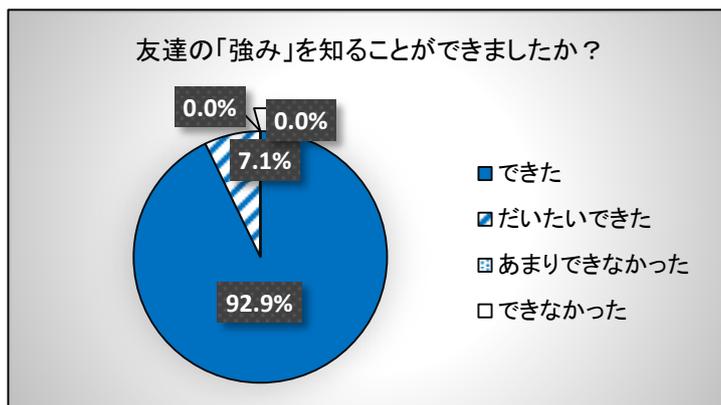


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

○振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問に対して、「思った」と回答した児童の割合は100%でした(図5)。また、振り返りシートには、「苦手なこともがんばればちゃんとできるのが分かってとても安心しました」「自分の『強み』を知れて良かったです。ドッジボールで生かしたいです。ボールをたくさん取りたいです」という記述が見られました。これらのことから、児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の学習活動やグループでの交流活動を通して、自分の「強み」の生かし方を考えることができたと考えます。

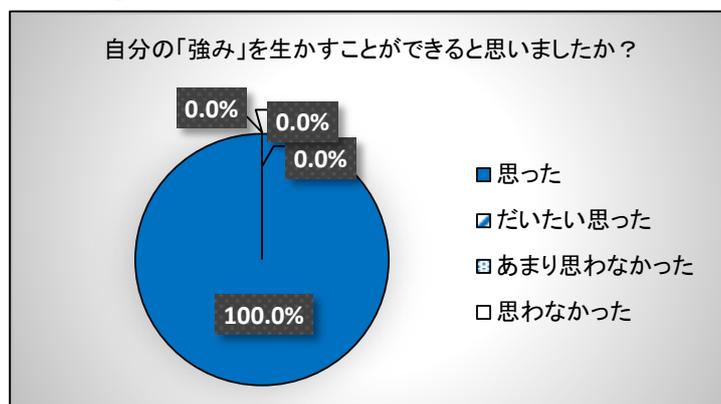


図5 自分の「強み」を生かすことができると思ったかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、2時目の授業において、児童は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」に気付き、それを伝え合い、自分の「強み」を生かすことができると思ったことが分かりました。また、1時目よりも「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して「できた」と回答した児童の割合が増えたことから、「強み」に関する学習活動を継続して行うことで、自分の「強み」に気付きやすくなったと考えます。一方、書く活動が多かったために時間が不足したことが課題として挙げられます。そこで、事前に苦手なことや困っていることを書かせておくなど、時間に余裕を持たせる手立てが必要であったと考えます。3時目は、全ての児童がじっくりと「強み」を見付けて書いたり、「強み」の生かし方を考えて書いたりすることができるように、発達の段階に応じて活動内容やワークシートを工夫する必要があると考えます。